

二五周年記念行事中止の お知らせとお詫び

現場の声と現状から取り組みたいと思います

日頃より、宅老所よりあい、よりあいの森の運営にご支援を賜りましてありがとうございます。先日のお話しにおいて、実行委員長から「記念行事を中止できないか」と提議がありました。25年は大きな節目です。20周年記念行事は、東日本で未曾有の震災があり、チャリティーコンサートに変更しました。そんな経緯もあり、25周年記念は何とか実施したいと考えていました。創始者の下村さんが昨年の8月に引退され、新しい世代に交代していくよい節目でもありました。

会議では職員たちがこう言いました。「これまで特養づくりに一心不乱に突き進んできました。一息もつく間もなく、今は現場の管理を担っています。初めての経験で、自分自身の役割で精一杯です。これまでに大切にしてきたケアもできていないと感じることもあります。今は現場に集中したいのです」。「特養が開所して1年半、いろんな課題が見えてきた。それを整理したいけど、何処から手を付けてよいかわからない状況・・・です」。確かに特養づくりは大変でした。日頃の仕事に加えて、話し合いや資金づくりに3年間、無我夢中で取り組みました。そうやって、やっと開所した特養の課題、新体制での現状から今何をすべきか考え、実行しなければと考えました。

誠に勝手ではございますが、どうか誠にお恥ずかしい話ですが（あれだけ、たくさんの方の告知チラシをまいておきながら）記念行事の開催を中止させていただきます。25周年記念行事に早くからご協力を賜りました皆様、私たちの呼びかけに心して日にちを確保してくださった皆様に心よりお詫び申し上げます。今後とも地道に取り組んで参りますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

宅老所よりあい代表 村瀬孝生

いま、私たちがなすべきこと

25周年記念の実行委員長の末吉です。今まで、コツコツと準備を進めてきました。職員にも物販、広報、会場、会計のいずれかの係になってもらい、全体で取り組んできました。グッズのアイデアを出し合い、商品が出来上がりました。広報係もポスター・チラシの原案作りに励んでいます。会場係は場所探しに必死です。歩は遅いのですが、着実に進んでいます。

と同時に準備をしながら、疑問もありました。「今、この時期に記念行事をやるべきなのか?」。特養が開所し、新体制となって1年半しか経っておらず、現場もまだ落ち着いていない。私も管理者としての役割で精一杯な状態です。特養主任の「本音を言えば今はしっかり現場に集中したいですけどね。」という気持ちを聞いたときに「本当にそうだな。」と思いました。

これまで私は「25周年記念行事を実行するものだ」と思っていました。すでに、決められていたことを、ただ行わなければならない。それだけだったのです。そういう意味では自分の頭で考えていなかったのです。

今、私たちがすべきことは何なのか。お年寄りの生活から、私たちの到達点から考えたい。ここで立ち止まって考えてみよう。現場を管理している職員で意見交換をすると同様の葛藤を抱えていました。今は現場に集中して実践を積み重ねて、しっかり土台作りをしていく時期であることを確認しました。

すでに動き始めているものを白紙に戻すことはとても勇気のいることでした。でも、自分たちが考えていること、不安に思っていることをみんな話して良かったと思います。

記念行事は中止することになりました。これは、日々、お年寄りから学び、実践を積み重ね、力をつけていくことを優先する前向きな決断であると考えています。

25周年実行委員長 末吉倫子